

3歳児クラスにおけるイメージを広げる  
造形活動の実践研究  
～色と形と言葉からの連想～

難波 章人

Practical Study of Modeling Activity  
to Expand in 3-year-old class  
～ Association from Color and Shape and words ～  
by  
Akito NAMBA

【キーワード】色、形、言葉、連想

## 1. はじめに

筆者は平成25年度よりJ保育園にて造形教室を担当させてもらっている。平成25年に、2歳児のクラスにてコラージュを取り入れた平面の製作活動を基にした論文「2歳児クラスにおける色と形からイメージを広げる造形活動の実践研究」を執筆した。「コラージュとはいろいろな素材を貼り合わせて意外性のある効果をねらうもの」<sup>1)</sup>の意味がある。その論文では、いくつかの技法を画面に重ねていくことで偶然にできる色や形に子どもたちが気づくことでイメージが広がるのではないかという考えから実践研究を行った。分かったことは、コラージュを取り入れた平面の製作では、子どもたちが色や形を段階的に一つの画面に足していく製作方法のため、前段階の色や形に左右されながらイメージを作ることであった。<sup>2)</sup>

本稿では3歳児クラスに上がった園児たちに引き続きコラージュを取り入れた平面の製作を通してイメージの広がりについて観察を試みた。論文「2歳児クラスにおける色と形からイメージを広げる造形活動の実践研究」の課題の一つに、子どもたちが製作時に表した言葉を記録していなかったことを挙げた。よって、本稿で実践した製作活動では園児1人に本学の学生を2人～3人ずつ担当させ、子どもが発した言葉を記録シートに残していくこととする。子どもたちの作品からイメージの広がりを考察するとき、作品の色と形と同様に、記録シートに残された言葉も子どもの表れの一つと捉える。本稿では、子どもたちが学生との会話の中から発した言葉と造形の色と形からイメージを広げる造形活動について実践事例を基に考察していきたい。

## 2. 実践方法

### コラージュを取り入れた平面製作の方法と手順

実践名：造形教室

日時：2014年6月16日、6月23日、7月14日

場所：本学短大棟造形室

対象：J保育園児3歳児クラス17名

支援者：本学学生30名程度

活動時間：約30分間（全3回）

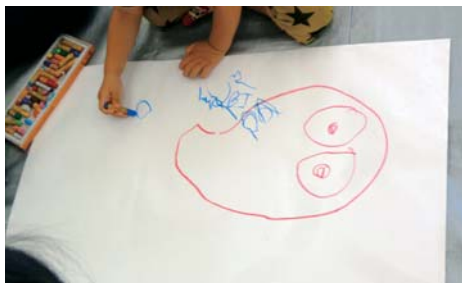
製作活動は3回に分けて実施した。園児1人に学生が2人または3人付いて、子どもたちの発した言葉を活動後に記録させた。以下、記録シートと呼ぶ。

描画の活動時に何を描いていいか分からず戸惑っている園児への支援として「何が好き？」など声掛けをすることで描き始めるきっかけをつくれるよう学生に事前指導した。子どもたちが学生との会話の中で、言葉からイメージを膨らませるところを観察できると考えたからである。

他、園児たちが学生たちに「○○描いて」とお願いすることも想定し、学生が描いてあげることも子どもたちのイメージの展開に繋がる可能性があると考え、学生指導を行った。また、次の活動に入るときには、子どもたちには前時の活動で何を描いたか問いかけをするなど、前時のイメージを思い出させるようにした。

写真①～④はコラージュを取り入れた平面製作の活動手順である。手順を追って見ていきたい。

#### ① 「クレパスを使った描画活動」



模造紙の半分の大きさ（横 79 cm×縦 54.5 cm）にクレパスで自由に線描きするよう、園児たちに伝える。薄い模造紙を半分に折ることで弾力性を持たせている。

園児たちは保育園にてクレパスでの描画の経験があるため、クレパスの色を選びながら描画を楽しむことができていた。

#### ② 「水性ペンを使った描画活動」



クレパスでの描画の後に、水性ペンで描画を進める。水性ペンはクレパスと比べて少し明るく透明感があるので、装飾的な効果がある。

材料が変わり、クレパスでの線描とは違った描き方、例えば、面を塗っていくような描き方をする場合も見られた。

#### ③ 「はさみを使った紙切りと糊付け活動」



左の写真ははさみを使う場面である。2歳児から少しずつ、はさみの練習も行ってきたこともあり、1回で切り落とせる幅の色画用紙を上手に切っていくことができた。色画用紙は赤色、青色、黄色を用意した。

切り終えた後、自分が切った色や形を見ながらこれまでの進めてきた描画の上に糊で貼っていく。

#### ④ 「スポンジスタンプを使った着色活動」



丸型のスポンジスタンプを使って着色する。これまでと同様、下地の色や形を見ながら自由に着色していく。

水性絵具の色は赤色、青色、黄色の三原色を用意し、パレット上で混色できるよう援助する。また、丸型の連続を繋げると紐状の形になることを園児たちに伝える。

### 3. コラージュを取り入れた平面作品からの考察

園児たちの作品①～⑤の色と形と言葉からイメージについて考察する。

(月齢は作品完成時とする。)

#### ① 園児Yちゃんの作品 (3歳児 ヶ月)



ペンでは家が描画されていった。また、うさぎの顔や体の一部分を面で塗っている。うさぎを自分なりに装飾しようとしているのが画面から分かる。



初めての活動では「何を描いていいかわからない」「できない」など、園児Yの言葉があった。そこで、学生たちが「好きな色は何?」、「好きなものは何?」と園児Yに声掛けをしたことにより「たくさんお話をしてくれた」と記録シートに書かれている。

クレパス画の活動では、うさぎや象、アンパンマン、また、虹や星など好きなものを好きな色で描画を進めた。水性ペン

スポンジスタンプの活動や色紙貼りの活動では、画面の下の空間に四角の色画用紙を丁寧に貼り付けている。この色紙の繋がりが汽車に見えたため、学生に頼んで線路と車輪を描いてもらっている。汽車の上辺りには画面上で色を混ぜながらスタンプしている。下地には水色のクレパスで汽車の煙を線で表現していたが、さらに煙のモクモク感を丸スポンジで描いているのである。園児Yの汽車へのイメージがよく見て取れる部分である。

完成した作品を眺めて見ると園児Yは常に上下の向きを固定して描いる。これは他の園児にはあまりみられなかった。そして、画面下に汽車や家があり、画面上に星や虹が描かれていて一つの空間として統合しようとしている点が見て取れた。

#### ② 園児Sちゃんの作品 (3歳児 ヶ月)

園児Sは最初、緊張して言葉を発さなかったが、声掛けをしていく中で少しずつその場に慣れてきてたくさんお話をしてくれたと記録シートに書かれていた。

園児Sは学生たちに見守られながら初めにピンク色でママを、青色でパパを、黒色で自分の顔を描いた。また、園児Sの顔の上からパパの顔を回るように緑色の小さな丸が描かれ、途中で黒色、青色、黄緑色、黄色、赤色と変化しながら最後にピンク色で終わり、ママの顔の方に繋げている。これと同じように、色画用紙を切った四角形をママの顔の周り



を一周してパパの顔の方へ繋げている。色画用紙は青色、赤色、黄色しかないが、それぞれの色を交互にバランスよく貼っている。これらの表象から考察できることは、園児Sは自分と父親、母親を囲むというイメージから出発して、家族が繋がっているという心の表れを示し、結ばれているという目には見えない糸を線で表現していると考えられる。

その後、園児Sはパパとママと自分の名前を書いてと学生にお願いして画面右上に記して活動を終えた（園児Sの名前はパソコンで消去）。題名のようなものだと考えられる。

スポンジスタンプの活動では描かれた顔（パパ、ママ、自分）の目や頬を色付けしている。口の表現はスポンジを滑らせてクレパス画の線をなぞるように線描した。

画面の上半分の空間には三原色からできる混色をいろいろと試しながらスタンプをしている。また、スタンプを滑らせて線にする方法で何度か試している。他にも、学生に「ピンク色作って」とお願いして（記録シート）、画面の左にピンク色でスタンプしている。

前半の雰囲気、イメージを最後まで残しながら完成に向かう表現であった。

### ③ 園児Mくんの作品（2歳児8ヶ月）



園児Mはまず、赤色のクレパスで大きな顔を描いた。いわゆる頭足人である。その横には芋のような形をした細長い生き物を描いて目や髭のような部位も描かれている。その他にはスクリブルが見られ、特に、青色や紫色で線描している。画面いっぱい引いた線やジグザグの線など多様な手の動きが見られる。

色画用紙の糊付けの作業ではクレパスの描画で生まれたイメージを大事にして貼っている。画面下を見てみよう。ナメクジのような生き物の胴体に模様を付けるかのように意識して貼っているのが分かる。色は青色、赤色、黄色を交互に貼っている。生き物の目のあたりには赤色の画用紙の切込みに青色の画用紙を重ねて口のような表現が見られる。生き物の胴体の模様付けと生き物の口の表現の違いを出そうとした園児Mのこだわりが分かる部分である。

スポンジスタンプ活動では青色を付けたスタンプを押しながら「ぶどう」と発言している。また、赤色を付けたスタンプを押しながら「さくらんぼ」と呼び、少し大きなスタンプに赤色を付けて「リンゴ」と言葉を発しながら色付けを行っていた（記録シート）。他にも、記録シートに書かれていた園児 M の姿に、色の名前を言いながらスタンプをしていたことや画面の余白にスタンプをしていき、余白がなくなるとスタンプを止めたと書かれてある。この姿は2歳児の時にも見られた行動で、自分が描いた描画を避けながら画面を完成させようとしている。

こうした一連の姿から、園児 M が絵の具の色を見て自分が知っている果物を想像していき、関連付けしながら楽しんでイメージを膨らませていることが分かった。

#### ④ 園児Uくんの作品（2歳児9ヶ月）



クレパスの描画では緑色と紫色で画面いっぱい線描きしている。園児にとっては大きな画面であり、手を目一杯動かしても模造紙からはみ出ない。そのため、体ごと動かしながら線描きを楽しんでいる様子が見られた。その中でも園児Uが「ブ〜ン」と言いながら線描きしていたと記録シートに残されてある。このことから園児Uが飛行機に乗って飛んで

いるような、ごっこ遊びが行われていたことが分かった。真っ白な画面の上で体を動かしながら自由に飛行し、その軌跡が線となって残された。

色画用紙をはさみで一度切りする活動で、園児Uは「（はさみで）切るのが好き」と学生たちに伝えている。切った色画用紙を並べたり重ねたりしながら貼っている。スクリブルとの関連性は見られない。

水性ペンを使った描画は画面に残っていない。絵具を使ったスタンプ活動に強い関心を示したからであろう。学生との会話の中で、園児Uはスポンジスタンプのぶどう作りを学生から学び、実行している（画面中央に2房）。

園児Uは青色と赤色を混ぜて紫を作っていく過程の中で「虹色みたい」と言葉で表現している。紫色を作っていくパレット上で三原色が緑色や橙色と混ざっていく過程を観察し、関心を持って見つめている園児Uの姿が想像できる。パレット上でできた紫色は赤や青に近い紫、少し黄色が混ざって濁っている紫色など無限のバリエーションがあり、園児Uは混色の楽しさを味わいながら画面に多くの紫色を残していった。

最終的には園児Uは自分の手に直接紫色の絵具を付けて画面にフィンガーペインティングを行ったことが記録シートから分かった。2歳児の実践の時にはフィンガーペインティングを取り入れたことがある。それ時の技法を思い出して試したと考えられる。2歳児の実践の頃と同じく、塗り重ねていく感覚に強く惹かれている。

⑤ 園児 S さんの作品（3 歳児 7 月）



図 5-1

クレパス画では画面全体に線描きを楽しんでいた。記録シートに書かれていた言葉は「アンパンマン」や「バイキンマン」、「ショクパンマン」、「口がとんがっているよ」などである。図 5-1 はアンパンマンとバイキンマンが見られる。図 5-2 はショクパンマンを逆さまから描いた。2 歳クラスの時にはこのように知っているキャラクターを描いたことはなかったが 3 歳児になって描ける形が多くなってきた。

図 5-2



園児 S は好きなものを学生たちに伝えながら描いた。全体的にイメージの繋がりはありません。一つ一つの活動の中で描画材料の効果を楽しみながら空白を埋めていった。しかし、初めの描画に重ねていった箇所が見られる（図 5-3）。

図 5-3



図 5-3 はアンパンマンのクレパス画の上に赤色、青色、黄色の画用紙を貼った写真である。スポンジスタンプでアンパンマンの頬を赤茶色で着色している。アンパンマンの頬の線画からはみ出しているが丸に塗られている。右の頬には塗っていない。左右同じように塗ろうという意識は希薄であるが、画材を変えながらも事物を具体化しようとする原初的な場面を見て取れた。

図 5-4



最後に園児 S は画面の中央には、スポンジスタンプをすべらせる方法で大きな円を描き、その円の中に目と鼻と口をイメージしてスタンプした。

園児 S のように前段階の活動のイメージに固執せず、目の前にある道具への関心が強い子どもは少なくない。色や形に引っ張られて造形活動を展開しているのである。

子どもたちが絵の具を使ったスタンプ押しに夢中になって好きなだけ押していく中で、偶然生まれ

る色や形からイメージを広げるきっかけがないか我々保育者は注意していくことが大事だと考える。また、道具を工夫して使ったところは積極的に褒めてあげることで子どもたちが次への意欲を湧かせるよう心掛けていきたい。

#### 4. 総括と課題

本稿では、色と形と言葉からイメージを広げる造形活動についてJ保育園で実践した製作方法の手順と園児たちの作品から考察してきた。3歳児に実践したコラージュを取り入れた平面製作の活動では、最初の段階では好きな物、知っているものを描いていくが、活動が進み描画材料が変わると、また違うイメージを持って進めていこうとする子どもと、画面に描いた様々な事物を一つの世界として表そうとする子どもが見られた。3歳児クラスの子どもの数人は、いくつかの活動を同じ画面に重ねてイメージを広げながらも、一つの画面・空間として統合しようとする力がついてきているのではないかと考えられる。そして、2歳児の時よりも具体的な事物を多く描けるようになったため、材料を変えて塗り分けたりするなど、自分なりに工夫して事物を表そうとする場面が見られた。

一方で、描画材料が変わると、違うイメージを持って進めていこうとする子どもの中には、絵の具の着色（今回はスポンジスタンプ）活動に夢中になる子どもが多かったように感じた。そうした子どもたちは新しい描画方法・描画材料に関心が傾き、新たなイメージを探しながら自分の知っている事物を作っていた。そのなかでも、スポンジスタンプでスタンプ活動をするときに、ぶどうやりんごなど、単語を声にしながらいメージを膨らませていることが分かった。スポンジスタンプが丸い形であったので大小にかかわらず丸い果物を連想したのであろう。スポンジスタンプの大小のバリエーションが2つしか用意していなかったことと、スポンジスタンプの形も例えば、四角形や三角形のものを用意した方がよかったのではないかと考えられる。しかし、限られた道具や材料の中で工夫していく子どもの姿も観察できたことは今後の画材選びや道具のバリエーションを考えていくためのヒントを与えてくれているのではなかろうか。

また、今回の製作活動では、子どもたちの活動中の言葉と作品に対するコメントを記録シートに残したため、子どもたちのイメージを作品からだけでなく、言葉と照らし合わせながら観察できた。具体的な例を挙げると、園児Uの④の作品で述べた普通のクレパスの線描きに見えたとしても、子どもが発する言葉を知って初めて、子どもが飛行機で空を飛んでいる「ごっこ遊び」を楽しんでいたことが分かったのである。そして、その後の活動の中での「虹みたい」という言葉（記録シート）からは、赤色、青色、黄色の絵の具が混ざっていく過程をよく観察していたことが分かるのである。このように、子どもの作品を考察していくときに言葉も含めて、子どものイメージを確かめることができた。

今回の平面の製作活動では模造紙を半分に折った大きさ（横 79 cm×縦 54.5 cm）を使用したため、大きな画面の上で子どもたちはダイナミックに手を動かして描画活動を楽しむことができた。また、いくつかの活動を画面に重ねていく活動においても、子どもたちは画面の開いている空間を埋めていく関心や集中力は三回目の活動の終盤まで続いたことが分かった。



しかし、子どもたちは大きな画面を前に座って絵を描いたため、画面の全体を俯瞰して捉えることが難しかったのではないかと感じた。その理由として、子どもたちが活動を重ねていく時、画面の開いている空白を埋めていく作業に関心が強く向いていった子どもが見られたからである。今後の課題としては、子どもが画面全体を眺められるように壁に貼るなどして、少し離れた距離から自分の描画を鑑賞する時間を取るべきではなかったかと思う。3回の活動を同じ画面に重ねていく描画方法であるので、活動の始めと終わりに鑑賞することも効果的ではないかと考えた。他の子どもたちの描いた作品を鑑賞することは自分の新たなイメージを引き出すことにも繋がろう。

今後も、子どもたちの豊かな感性を観察していきながら子どもたちと共に造形活動を継続していきたいと考えている。

#### 謝辞

3歳児クラスの園児たちへの造形活動で御支援いただきましたJ保育園の先生方に感謝の意を表します。

#### 引用・参考文献

- 1) 真鍋一男・宮脇理(編),『造形教育辞典』,建帛社,1991,p.261
- 2) 難波章人「2歳児クラスにおける色と形からイメージを広げる造形活動の実践研究」  
純真紀要 第54号,2013,p.8
- 3) 厚生労働省(編),「保育所保育指針」,2008
- 4) 文部科学省(編),「幼稚園教育要領」,2008

#### J保育園児のその他の作品



